

カルメル

霊性センターニュース



2022年4月

385号

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。

(聖ヨハネ・パウロ二世広島「平和アピール」)

どの戦争も必ず、世界を、かつての姿よりもいっそう劣化させます。戦争は、政治の失敗、人間性の欠如であり、悪しき勢力に対する恥ずべき降伏、敗北なのです。理屈をこねるのはやめて、傷に触れ、犠牲者のからだに触れようではありませんか。「巻き添え被害」で殺戮された無数の民間人を、しっかり見つめようではありませんか。犠牲者に尋ねようではありませんか。避難民、被爆者や化学兵器の被害者、わが子を亡くした母、手足を失った子や幼少期を奪われた子どもたちに、目を向けようではありませんか。こうした暴力の犠牲者が伝える真実に意識を向け、彼らの目をとおして現実を見つめ、開かれた心で彼らの話に耳を傾けようではありませんか。そうすれば、戦争の根底にある悪の深淵に気づけるようになり、平和を選ぶことで愚直だといわれようとも動じることはないのです。

(教皇フランシスコ回勅『兄弟の皆さん』261)

目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	23
東京	24
キリスト教放送局 FEBC のご案内	29
京都	30
通信深読お申込みのご案内	32
諸所の企画案内	33
郵送お申込みのご案内	38
あとがき	39

心の泉



宇治カルメル会修道院



第三卷

第四十七章 永遠の生命を得るために、どのような犠牲も耐え忍ぶ

4 聖人のように

もしあなたが、この真理をよく悟り、それを心に刻んだのなら、ただの一度でも不平を言えるであろうか？永遠の生命のためには、どんな労苦も忍ぶべきではないか？神の国を得るか失うかは、小さなことではない。目を天に上げなさい。そこには、私がいる。またこの世で辛い試練を忍んだ、私の聖人たちもいる。この者たちは、今こそ喜び、限りない慰めを得て、何の恐れもなく休んでいる。父のみ国に彼らも私と共に、終わりなく住むであろう。》

第四十八章 永遠の日と、この世の息苦しさ

1 子

《天の都のなんと幸せな住まい！夜の闇におおわれることもなく、絶えず至上の真理に照らされた、永遠に輝く日よ！いつも楽しく、いつも安らかな、いつまでも終わりのない日々よ！ああ、私たちの上にも、永遠のその日が輝き、地上のほかない日が終わればよいのに！その日は、永遠に輝く光を聖人たにのために放っている。しかし、この世を歩み続ける者にとっては、はるかに遠く、鏡に映った影のようにおぼろげ（一コリント 13・12 参照）に見えるのです。

2 この世の日々は不安で辛い

天の住民は、その日がどんなに歓喜に満ちているかをすでに知っています。しかし、さすらい人のエバの子は、この世の日々がどんなに辛く悲しいかを嘆いています。この世の日々は短く、悪く、苦しく、辛い。人間は罪に汚され、邪欲に取り巻かれ、恐怖におびやかされ、仕事に気をつかい、新奇なことに気を散らし、空しい事柄にまわりつかれ、多くの誤謬に囲まれ、労苦に圧迫され、誘惑に悩まされ、快樂に弱らされ、貧困にあえいでいます。

このページがくられる頃は、四旬節の最後の歩みの頃となるのでしょうか。枝の主日に「ホザンナ」とイエスをたたえた人々は、一変して「十字架にかけろ！」と叫ぶ群集となり、イエスは十字架上の死への道のりをひたすら歩みます。



主イエスよ、

今、あなたはカルワリオの丘へと向かわれます。
 わたしにこの道のりを ともにさせてください。
 道すがら あなたが感じておられることを教えてください。
 そこで起きている出来事を眺めるのではなく、わたしはあなたを知りたい。
 人となられた神のみことばよ、あなたの心を知りたいのです。
 どうぞ、あなた自身をわたしに示してください。

あなたが死を前にして揺さぶられ、震えられたように、
 わたしたちもおそれ、身震いすることでしょう。
 わたしたちは、このいのちを愛していますから。
 あなたが死を受け入れられたように、死を受け入れ、
 死のありのままの姿を見ることを わたしたちに教えてください。
 死は全ての終わりではなく、本当のいのちに入るということを。 そのとき・・・
 天の門は開かれ、帳（とぼり）は裂け、あふれる光へと入ってゆくのだということ。

～マリー＝ユージェヌ神父 ocd～

主よ、あなたが望まれるすべてのことに わたし自身をささげます。

それが平和、よろこび、あるいは闇、苦しみであっても。

あなたが神のみ旨に忠実であったように、

すべての神の望みに素直に従う柔軟さを、

主よ、わたしに教えてください。

～マリー＝ユージェヌ神父の叙階の日の日記より～



父のいつくしみのみ顔である

キリストは よみがえられた、アレルヤ

ご復活おめでとうございます！

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ



創造主への賛美（52）

くのり
九里 彰

先月は、「敵をも愛せ」というキリストの教えについて触れた。そうこうするうちに、2月24日、ウクライナ国境に軍事訓練と称して集結していたロシア軍が宣戦布告もなく、突如国境を越え、ウクライナへの侵攻を開始した。攻撃は最初のうちは軍事施設だけであったが、ウクライナ軍の予想以上の抵抗に遭い、戦意を喪失させるためであろうか、一般市民の住宅や病院などへの無差別攻撃が始まった。戦闘は激化し、すでに300万人を超える人々が国外へ避難している。その大半は女性や子供、老人である。18歳以上の男性は、祖国を守るため残るよう求められているからだ。死者は兵士にとどまらず、多くの市民が巻き添えになっている。

しかし、今回の戦争ほど、いかに為政者の人間的資質が問題であるかが浮き彫りになったことはないのではないだろうか。ウラジミール・プーチン氏は、明らかに子供じみている。彼の心理構造は、町のならず者のようにたえず喧嘩に明け暮れていた子供時代から、ほとんど成長していないのではないかと思われる。

12歳の時、彼のはけ口は、喧嘩からサンボや柔道など格闘技となる。KGBの目に留まり、大学に行くよう勧められ、法律を学び、卒業後、すぐにKGBに入る。ここでスパイとしての訓練を徹底的に受ける。その後、政界へ転出し、ロシアの大統領へののぼりつめる経歴は、今はどうでもよい。というのも、彼の価値観、人間観の土台は十代前半までに形づくられているように思われるからだ。

基本的に、彼には敵と味方しかないように思われる。自分の考えに同調する者は味方だが、ひとたび反対すれば敵となる。腕力で相手を打ちのめしていた時代は終わり、法律の知識やKGBで習得した技術手法を駆使し、競争相手を打ち負かし、政治権力を掌握した暁には、反対勢力を粛清する。逮捕し、刑務所に閉じ込めるだけでなく、処刑、毒殺、暗殺も辞さない。独裁者としての地位を固めた彼は、今やウクライナ侵略というとんでもない計画に着手した。

ヒットラーの世界征服、秀吉の朝鮮中国征伐と何ら変わるところはない。皆、狂人とは言えないところに、事態の深刻さがある。アメリカの前大統領は、彼を「天才」呼んだそうだが、この天才は、未熟な人間観、世界観のもと、人々を塗炭の苦しみにあわせている。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (167)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

十字架の聖ヨハネはストックホルム症候群に苦しんでいた？(2)

カルメル・ファミリーの代表者、母イエスのテレジアは、彼女のために引き起こされた計り知れない苦しみをもって、また非常に個人的な念祷という金貨をもって報いましたが、彼（訳注：十字架の聖ヨハネのこと）がどこに連れ去れたかを必死につきとめようとするによっても報いました。彼女は手紙を、とりわけ著名な影響力のある人々に、まさにフェリペ2世国王にも、この問題に関して正義が行われるよう求めてしたためました。（ヨハネが脱走する）最後の日まで訴え続け、苦しみながらそうしたのです。けれども、何も得ることはできませんでした。

十字架のヨハネがその詩で歌っているように、「すべての人から望まれている幸いなる自由」のために真に報いた者は、彼自身でした。逃亡という冒険によって報いたのであり、——婉曲的な言い方を避ければ——当時の人々のかわや、すなわち便所以外の何物でもない、暗く狭い牢獄の中で生み出された彼の詩という宝物によって全人類に報いたのです。最初の伝記作家キログは、約40年後に、その場所を描写するために訪れ、こう言っています。「牢獄は、広間の脇にしつらえた小さな部屋で、幅は6ピエ（約30センチ×6）、長さは10ピエで、光も通気口もなく、高いところに指3本ほどの穴がありました」。

十字架のヨハネは新たに生まれることによって、『霊の賛歌』の31の歌と『”はじめにことばがあった“という福音の言葉に関するロマンセ』、『夜であるのに』の詩、『”バビロンの流れのほとりに”に関する詩編のグロサ』が、そしておそらく『暗夜』の8つの歌も、この時、生まれたのです。

この人の多くの苦しみによって、人類共同体はなんとよく報われたことでしょう。彼の牢獄の体験は、散文の書き物ばかりでなく、彼の詩にもしばしば形となったのです。

十字架のヨハネの生涯における「ストックホルム症候群」については、どのように答えることができるのでしょうか。

伝統的な聖人伝作家の答えは、みな一つです。「そんなことは何もなかった」と。

(P. 九里訳)

四旬節 第5主日

(ヨハネ 8 : 1-11)

「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい。」

こう言うと、イエスは身をかがめて地面に何かを書き続けました。これを聞いた人々は、年長者から始まって、一人また一人と、立ち去って行きました。

女の犯したことは確かに罪でした。しかし、その女を罪に定めようとする人々の中にも罪があることをイエスは知っていました。「この人たちは、自分の罪を棚に上げて、人を裁いている」。

イエスは地面に何かを書きながら、彼らに考える時間を与えています。もちろん女にも。もしかしたら、誰かが女に石を投げてもおかしくない緊張状態の中で沈黙の時間が与えられました。その時間を経てすべての人が変わったのです。年長者から始まって、一人また一人と去って行き、最後に女が残されました。イエスは女に言いました。

「婦人よ、あの人たちはどこにいるのか。だれもあなたを罪に定めなかったのか。」

「主よ、だれも。」

「わたしもあなたを罪に定めません。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない。」

唯一、石を投げることでできた人はイエスだったはずですが、しかし、イエスも女を罪に定めませんでした。きっと女は心を入れ替えたことでしょう。安心を得たことでしょう。

イエスは私たちにみ言葉を語り、さらに考える時間を与えます。自分で自分を見つめ、心を入れ替えるチャンスを与えてくださいます。心を入れ替えることでできた人を、イエスはそれ以上追求しません。そればかりか、「行きなさい」と未来に向けて送り出してくださるのです。

下を向いて何かを書きながら、考える時間を与えてくださっているイエス様を思い起こして、私たちも自分自身を見つめましょう。「自分の目の中の丸太を取り除きましょう」(ルカ 6・42)。イエスは私たちにも心の平安と未来に向かって歩む力を与えてくださいます。

(今泉健 神父)

受難の主日（枝の主日）

（ルカ 23 : 1 - 49）

受難に関するルカの描写は、聖週間のことをよく理解させてくれます。ルカの解釈は、マタイとマルコに似ていますが、ルカでは個人的な詳細に触れています；それは、主のあわれみ深い他者へのゆるし、カルワリオでの婦人の役割、この私たちの贖いの物語におけるキリストと他者との間の個人的関係性です。

この主日で聖週間が始まります。地上でのイエスの最後の一週間です。イエスの地上の宣教、病人の癒し、貧しい人々へのよい知らせの宣言、神の王国の設立の使命の最終章です。イエスは、メシア的な小さい行列を計画します。勇気ある、ドラマティックなエルサレムへの入場、終わりの運命への入場です。人々はイエスのそばにいて、「ホザンナ、ホザンナ、主の名によって来る人に祝福があるように」と叫び、喜びの叫び声でイエスを歓迎します。人々は、イエスが自分たちの新しい王であり、ローマ帝国を打ち倒し、新しい政治体制を始めるのを期待しているのかもしれませんが。しかし、イエスがここにいるのは、ご自分が望むこと、彼らが望むことを行うためではありません。イエスは忠実に神の計画を達成します。自分の王国はこの世のものではない、とイエスは言いました。神の王国は、権力や、政治、威信についてのもではありません。神の王国は、愛、赦し謙虚、貧しい人たちへの思いやりです。このようなものは多分、ポンティオ・ピラトや、ローマ人たち、宗教上の指導者たち、そしてイエスに一番近い弟子たちでさえ、本当には理解しませんでした。イエスは、仕えるために来たのであって、仕えられるためではありません。イエスは赦すために来たのであって、裁くためではありません。イエスは私たちを愛し、私たちの足を洗うために来たのであり、イエスは私たちへの愛から自分自身を捧げるために来られたのです。

これは、神の完全な自己放棄の物語です。人類にたいする神の最も深い愛の物語です。王は家来たちに殺されます。イエスは、審問され、有罪の判決がくだされ、十字架刑にされます。イエスは、仔羊の柔和さで受難を忍びます。死の苦しみの中においても、赦しと贖いを捧げます。

イエス・キリストにおいての親愛な兄弟姉妹の皆さん、キリストのご受難は自分の生活にどのような意味があるのでしょうか？ 考えてみましょう。皆さまにとって、恵み豊かな聖週間と、勝利の復活祭となりますように！

(Sr. Paulina)

復活の主日

(ルカ24：1 - 12)

主のご復活おめでとうございます。今日の福音は、ルカ福音書「イエスのご復活」の場面です。少し前の場面に遡ると、イエスが葬られた日の夕方から安息日が始ったため、アリマタヤのヨセフの後について行ったガリラヤからイエスと一緒に来た婦人たちは、安息日には掟に従って休んだことが語られています。

安息日が終わると、婦人たちは明け方早くイエスの墓へ向かいます。塞いでいた石がわきに転がされ、イエスの遺体が見当たらなかったことで、途方にくれてしまいます。亡くなったイエスの体がなくなっていたのですから。

そんな折に、輝く衣を着た二人の人がそばに現われて、婦人たちに語ります。大切に受け止めましょう。イエスは生きておられる方、復活なされたのです。そのことを後に深く信じさせるため、イエスはガリラヤで前もって婦人たちに語られました。人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっていると。そこで婦人たちは、イエスの言葉を思い出して変えられていきます。

墓から帰り、十一人と他の人々に一部始終を知らせた婦人たち。イエスがおられないことを自分たちの目で確かめた上で使徒たちに話したのですが、残念ながら使徒たちは、たわ言のように思われ、婦人たちを信じなかったと記されています。

婦人たちが目で確かめたのにもかかわらず、そのことが信じられなかった使徒たち。誰よりも何よりも、イエスから直接にご受難やご復活について聞いていたというのに。私たちは、主のご復活をどのように受け止めているのでしょうか。

私たちは、イエスの復活を信仰持って信じ、年ごとに記念する祝いを祝いましょう。信じない者ではなく、信じる者となりましょう…。イエスは復活され、私たちとともにいて下さいます。ともにおられるだけではなく、ご聖体としてご自分を私たちのために、余すところなく今日も与えて下さいます。そのお方を信じ、そのお方に支えられながら、これからもともに歩んでゆきましょう。

(Fr. 古川利雅)

神のいつくしみの主日 (C)

(ヨハネ 20 : 19 - 31)

今日、教会は「神のいつくしみの主日」を祝います。

ヨハネによる福音書の今日の箇所は、大事なことを幾つか教えてください。復活したイエスは、使徒たちの前に現れると、だれの罪でも使徒たちが赦せば赦され、使徒たちが赦さなければ赦されないまま残る、として彼らを派遣されました。その後、主は、疑うトマスを信じる人へと変えました。最後に今日の福音箇所の結びには、この4番目の福音書が編さんされた目的が記されています。

イエスは、使徒たちに、神の愛といつくしみと赦し、という救いのよい知らせを広く告げ知らせる任務を与えました。復活したキリストは、その御名によって罪を赦す権威と、神のいつくしみを罪人に分け与える力を使徒たちに与えました。ここで、イエスが最初に姿を現した時に不在だったディディモと呼ばれるトマスが登場します。彼は、私たちにインスピレーションを与えてくれる存在です。トマスは、「主を見た」と言う弟子たちを信じません。しかし後日、イエスは、トマスに現れると、「見ないのに信じる人は、幸いである」と言いました。これに対し、疑う使徒だったトマスは「わたしの主、わたしの神よ」と高らかに信仰を宣言します。復活したキリストを見たからこそ、トマスは疑いに打ち勝つことができました。トマスの信仰宣言は、イエスが復活した最大の証拠です。

トマスと復活したキリストとの出会いは、私たち一同に希望をもたらします。トマスは、信仰の道を歩みながら悪戦苦闘する私たちの代表です。私たちには、信じる心と信じられない心の両方が入り混じっています。そして私たちは、トマスと同じように、疑いを抱く時があれば、「イエスこそわたしの主であり神だ」と心の底から信じて宣言する時もあります。この宣言こそ、キリスト者としての信仰の土台です。神のいつくしみを盛大に祝うこの日にあたり、復活した主のいつくしみと赦しを信じて宣言し、さらにこれを他者に伝える恵みを真剣に祈り求めましょう。

(Sr. Paulina)

いのちの言葉 4月

全世界に行って、すべての造られたものに
福音を宣べ伝えなさい。

(マルコ 16・15)

復活したイエスが使徒たち一同に現れる場面は、マルコ福音書では一度だけ描かれています。そこにはイエスの最後の言葉が記されています。

そのときも使徒たちは、受難と死を迎える前のイエスとしばしばしていたように、食卓を囲んでいましたが、今ではもはや敗北の色濃い集団となっていました。イエスがご自分の傍に置くために選んだ12人は11人となり、「十字架の瞬間」には、イエスを否定した者もあり、多くは逃げ去りました。

イエスと使徒たちの、地上での最後の出会いとなったこの重要な場面で、イエスは使徒たちの頑なな心を戒めます。彼らが、復活を証言した人たちに対して心を閉ざしているからです¹。一方でイエスは、どれだけ彼らに弱さがあるとしても、ご自身のいのちと言葉からなる「良き知らせ」、福音を告げ知らせる使命を、ご自分が選んだ使徒たちに改めてお与えになります。

威厳に満ちた言葉を語られた後、復活の主は父のもとに帰って行かれますが、同時にまた弟子たちと共に「留まり」、驚くべきしるしをもって弟子たちの言葉が真実であることを示されます。

全世界に行って、すべての造られたものに
福音を宣べ伝えなさい。

このことから、イエスがご自身の使命を継承させるために遣わされた共同体は、完べき人々の集団ではないことが分かります。彼らは何よりもまず、イエスと共に「いて」²、イエスの存在と、その忍耐強く慈しみ深い愛を経験するために呼ばれた人たちです。そして、この体験ゆえに、共におられる神の近しい存在を「すべての被造物に告げ知らせる」ために遣わされるのです。

宣教が成功するか否かは個々人の能力によるのではなく、イエス自らが弟子たちと信徒共同体に委ねられた、復活の主の存在の有無にかかっています。共同体（信徒たち）が福音を生きて、宣べ伝えることによって、福音そのものも大きくなっていくのです³。

私たちがキリスト者としてできることは、自分の生き方と言葉でもって神の愛を叫ぶこと、そして勇気と寛大さをもって自分自身の外に出ることです。復活の主の存在は、希望に向かって人の心の扉を開きます。すべての人に、心配りと敬意を保ちつつ、この賜物を差し出すことです。

それには、常にイエスを証しし（ことばと行いを通してイエスの愛を伝えること）、決して自分自身を証ししない（自分を顕示しない）ことです。実際、私たちは自分自身を「捨てる」こと、己が「小さくされて」イエスが「大きくなる」ようにする

¹ マルコ 16・9-13 参照

² マルコ 3・14-15 参照

³ 第2パチカン公会議公文書『神の啓示に関する教義憲章（啓示憲章）』第8項

ことを求められています。私たちの心の中で、きょうだい愛へと向かうように働きかけるイエスの霊に、場を譲る必要があります。

「誰かと会う時、私たちはいつも聖霊に従うことが大切です。聖霊は、私たちが『相手と一つに』なり、完全に相手に仕えることができるようにしてくださるからです。また、相手が自分にとって敵のような存在ならば、その人を愛するための力を、聖霊は与えてくださいます。相手を赦し、相手が必要とするものを理解できるよう、私たちの心を憐みで満たしてください。また私たちが話をする時には、熱意に満ちて、自分の魂にある最も美しいものを分かち合えるようにしてくださいます。

イエスの愛は、私たちの愛を通して、人々に示され、伝わっていきます。

私たちの心に、この神の愛があるなら、遠くの人々にまで及ぶことができるでしょう。私たちは、自分が知った神の愛を、他の多くの人々に分かち合うことができますでしょう。

私たちの中におられる神の愛が、相手の心にやさしく触れる時まで、私たちは自分のすべてを後にするよう努めましょう。やがて相手も、私たちと『一つになる』ことを望み、互いに助け合い、自分の理想や計画を分かち合い、相互の愛を生きるようになるでしょう。その時初めて、私たちは言葉でも何かを伝えることができるでしょう。お互いの愛があるところでは、言葉は、相手にとって贈り物となるからです。⁴⁾

全世界に行って、すべての造られたものに

福音を宣べ伝えなさい。

「すべての被造物に」という視点は、壮大な被造物のモザイクに私たちが属していることを認識させてくれるものです。この点は、今日にあって特に私たちが敏感になっているテーマであり、多くの若者たちがこの「^の人類の新たな歩み」の最先端にいます。彼らは福音書のスタイルに倣い、言葉で宣べ伝えていることを行動でも裏付けています。

ニュージーランドのロバートは「僕らは地域活動として、ウェリントン地方南部にあるポリリア港の持続可能な修復を支援しています」と、ウェブサイト⁵⁾で自分たちの体験を紹介しています。「この取り組みは、自治体やマオリのカトリック共同体、地元の部族も関わっています。僕らの活動の目的は、地元の部族の人たちが自ら港の修復を主導し、水がきれいに流れ、汚染の心配なく貝の採集や日常的な漁をできるようにしたいという望みを支援することです。この取り組みはすでに良い結果をもたらしており、真の共同体意識が生まれています。今後の課題は、活動が一過性のイベントに終わらず、長期的に支援を維持できるプロジェクトとしていくことで、真に環境の変化をもたらすようにすることです。」

レティツィア・マグリ

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

⁴キアラ・ルービック 2003年6月の「いのちの言葉」より

⁵全文および他の体験談(各国語)はこちら → <http://www.unitedworldproject.org/workshop>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2022年2月27日

ウクライナのカルメル会との通信

親愛なる兄弟姉妹の皆さんへ、

私たちは皆、ウクライナとそこにおられる兄弟姉妹と結ばれています。現地で支援を求める人々を助けるために、この緊急の依頼を皆さんにお送りします。現時点では、皆さんの祈りと可能な献金をお願いしています。感謝の内に。

皆さんに神の祝福がありますように。



跣足カルメル修道会総長 ミゲル マルケス神父

.....
2022年2月27日 キエフ発

“平和を実現する人は、幸いである。その人たちは神の子とよばれる。”

(マタイ5:9)

親愛なるキリストの兄弟姉妹の皆さん；

ウクライナの跣足カルメル修道会のハルキウ、キエフの修道女たち、そしてベルディチュウ、キエフ、グウォズダワの修道士たちの共同体に代わり、ポーランドや世界からの私たちへのお心遣いと支援に感謝致します。この助けは、私たちの精神の大きな力となっています。

昨夜キエフは爆撃をうけて困難な状態にあります。私たちは元気です。その騒音を耳にし、修道院の家も揺れ動きました。しかし神は私たちを天使たちと聖母マリアとともにお守りくださいました。

今のところ被害にさらされてはいません。私たちは皆さんにウクライナのため、特に激しい攻撃を受け困難にあるキエフの人々のためのお祈りをお願いします。

私たちの主な使命は平和のために祈ることですが、助けを求めて来る人々に寄り添うことも大切です。人びとは攻撃の際、私たち修道院の壁の中にいることで安心感をもると知っているのです。私たちは家族、特に高齢者や子ども連れの家族を助けられるよう備えています。水、発電気、薪ストーブや薬を買っています。ベルディチュウの教会では、そこの古い壁と広いスペースで市民のための燃料貯蔵場所を構築しました。燃料の枯渇している最も貧しい人々も戦争から逃れて、困難なことである特にポーランドへの出国の助けを求めています。そのうちに食料、飲料水、薬、電気などの生活必需品は底

を尽くと予測し、聖書の善きサマリア人のように、戦争の被災者を助けるための備えを求めています。

私たちのポーランドの修道士たちは率先して、ウクライナの修道士と修道女の共同体のためと、特に近い内に私たちのところに来る人、移動してくる人々のために物資供給支援基金を立ち上げました。

この困難な時期に、皆さんの助けを頂けるようお願い致します。献金は私たちのポーランドの修道院にまでお届けくださるか、“ウクライナでの戦闘の被災者のために”と記載して、跣足カルメル修道会本部の銀行口座にお振込みください。

私は会の総長と代表者に常にコンタクトをとり、彼らは最初に私たちの修道院の状況の変化を把握されます。私たちのための皆さんのお祈りとお心遣いに感謝します。これこそ私たちの力と勝利です。

神が近いうちに戦争の被害を終結させて、カルメル会のため、教会と全ウクライナのために、この困難な体験を通して教え導いてくださると信じます。

ウクライナの兄弟姉妹の名によって、

跣足カルメル修道会 ウクライナ管区長
ジョセフ クチャルチク神父OD.

2022年3月7日

アヴィラ発：イエスの聖テレジア列聖400周年記念

2022年3月12日～2023年10月15日

教皇フランシスコは、アヴィラのモンセニョール ギル タマヨ大司教の依頼により、イエスの聖テレジア列聖400周年を祝い聖年とする宣言をされました。この聖年の期間は、通常とは異なり2022年3月12日～2023年10月15日にわたる一年半となっています。

それは、2023年10月15日（日）の聖テレジア聖年が、教皇が定期的にどの年にあっても聖テレジアの記念日が日曜日になる年を聖年にすると決められたことと重なるためです。



この荘厳聖年は2022年3月13日にイエスの聖テレジアの修道院のミサで開始され、スペインのテレビで同時中継されました。

教皇庁内赦院の法令では、イエスの聖テレジアの教会はこの聖年の正式な巡礼地となり、通常のゆるしの秘跡と聖体の秘跡にあずかり、教皇の意向のための祈りを行うことにより全免償が受けられます。

(小宮山延子 訳)

糸巻き棒からペンへ(74)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンズ OCD

愛のこもった祈り

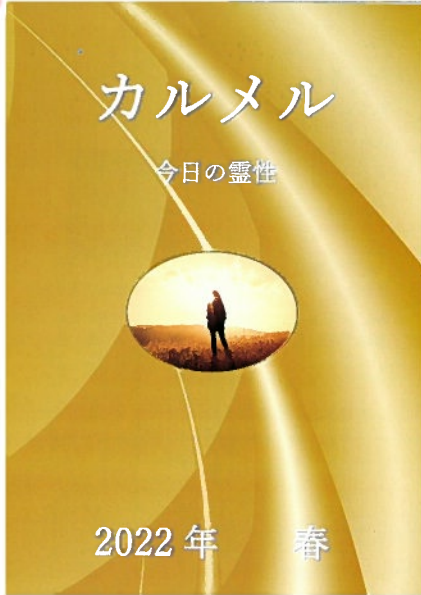
祈り（念祷）の実践を始めたとき、テレジアは福音書や他の靈的書物の何らかの個所を黙想することによって始めました。黙想の中で、彼女はキリストの生涯の一場面を思い浮かべ、その教えについて思いめぐらしました。「私の念祷の方法は次のようでした。…、自分のうちにキリストを現すように努めました。そして自分の思いや考えをできる限り捨てて、彼と共にいました」（『自叙伝』9,4）。

あるときには、主の神秘的な、しかし現実的な現存を、その状態を引き起こすために何もしないにもかかわらず、自分のかたわらに感じました。それは、神秘的祈り（念祷）の入り口でした。「思いがけないときに、神の現存の内的感じが起こり、神が私のうちにおいでになること、また私が神のうちにまったく包まれていることを、少しも疑うことができませんでした」（同 10,1）。このことは、彼女に驚きと喜びをもたらしました。彼女の聴罪司祭たちは、悪魔が彼女をだましているのだと思いましたが、彼女は自分を訪れてくださっている方は神であると、疑うことはできませんでした。なぜなら、彼女は日ごとに信仰と希望のうちに固められ、愛の実践においてはますます寛大になり、すべてのものからますます解放されていくの感じたからです。

祈りにおいて、自分の思いや考えの占める時間は、ますます少なくなっていきました。逆に、愛情や意志は、ますます決定的なものとなっていきました。彼女はキリストの現存を感じ、彼を愛情をこめて眺め、彼からも眺められるままになり、友と、あるいは兄弟と、あるいは夫と話すとき使う言葉であることも気にせず、彼に話しかけました。このようにすることを、読者たちにも勧めています。

(P.九里訳)

カルメル誌 新刊案内



2021年 春号 No.384

- | | |
|--|------|
| エディット・シュタインの言葉 抄(一) | 釘宮明美 |
| 道の靈性(続)第一回
キリストの平和と「抑止論」の平和 | 田畑邦治 |
| アピラの聖テレジアの靈的同伴 | 松田浩一 |
| 日々の出来事の中で 神の靈は導く
—福者マリー・ユージェヌ神父の司祭縁階と
カルメル入会100周年にあたって | 伊従信子 |
| 風に吹かれて再び(1)—小春日和 | 原 造 |
| あの人が死んだら私には分かるはず | 森 みさ |
| キリストの説かれた 幸いなる道(5) | 九里 彰 |
| 靈的研究会講義録(15)—聖書・祈り・愛について | 奥村一郎 |

2021年 特集号

「向こう岸に渡ろう」

—パンデミック後の選択—

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| 向こう岸に渡ろう | 中川 博道 |
| —四旬節：パンデミックの中での過ぎ越し | |
| 人類は新たに生まれねばならない | 九里 彰 |
| 神のいやしを行うイエス・キリストをみつめて… | |
| —フランスコ教皇さまの連続講話
「この世界をいやす」についての考察 | 松田浩一 |
| 同じ舟に乗る者たちとして | |
| —『つながり』の靈性を求めて | 若松英輔 |
| 何も咲かない寒い日—今を問う | 大瀬高司 |

ご案内

1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

- お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。
〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

————— 目次 —————

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるからたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

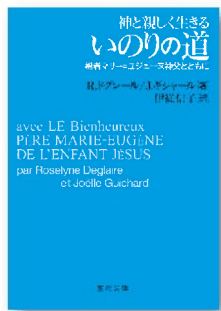
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

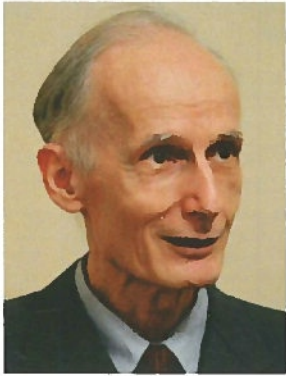
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館 〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2022年~)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【聖週間】

聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。

4月14日(木)夕食~4月17日(日) 朝食 《講話なし、各食3付》

【クリスマス】

12月24日(土)~25日(日) 朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時~日曜日16時) 大瀬高史 神父

4月23日~24日

11月 5日~ 6日

6月 4日~ 5日

7月16日~17日

2023年

9月 3日~ 4日

2月25日~26日

- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時~16時・昼食付) カルメル会士

4月20日 5月18日 6月15日 7月20日

9月21日 10月26日 11月16日 12月21日

2023年 1月18日 2月15日 3月15日

- ・キリスト教霊性入門(木曜日10時~16時 昼食付) 松田浩一神父

4月7日 5月12日 6月2日 7月7日

9月1日 10月13日 11月3日 12月8日

2023年 1月12日 2月2日 3月2日

- ・青年黙想会(男女) 35歳まで(初日16時~翌日16時) カルメル会士

5月21日(土)~22日(日)

- ・一泊黙想会（土曜日16時～日曜日16時） カルメル会士

5月14日～15日	2023年
7月23日～24日	1月14日～15日
9月17日～18日	3月18日～19日
11月19日～20日	

- ・奉獻生活者のための黙想会（初日17時～最終日朝食） カルメル会士

8月 1日(月)～10日(水)	
8月16日(火)～25日(木)	
12月27日(火)～2023年1月 5日(木)	

- ・召命黙想会(男女)40歳まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士

11月11日(金)～13日(日)	
------------------	--

- ・カルメル会召命黙想会(男子)40歳まで（初日16時～最終日16時）
カルメル会士

4月 2日(土)～ 3日(日)	2023年
7月 9日(土)～10日(日)	2月 4日(土)～ 5日(日)
10月29日(土)～30日(日)	

- ・特別黙想会(初日20時～最終日16時)Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

5月27日(金)～29日(日)	
11月25日(金)～27日(日)	

- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>



カルメル青年黙想会

キリストへのあこがれ



日時：2022年5月21日（土）16時～22日（日）16時

場所：カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

対象：青年男女（16歳～35歳まで）

定員：9名

費用：一般 5,000円 学生 3,000円

締切：2022年5月14日（土）

指導：カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

電話：03（5706）7355

FAX：03（3704）1789

E-mail：mokusou@carmel-monastery.jp

一日黙想会

テーマ：『カルメル会聖人に学ぶ黙想会』

*毎月第三水曜日（8月はお休み）

*10時～16時 3,500円（昼食付）

<2022年度開催予定日（2022年4月～2023年3月）>

2022年	4月20日	5月18日	6月15日	7月20日
	9月21日	10月26日	11月16日	12月21日
		(*第4週)		
2023年	1月18日	2月15日	3月15日	

コロナの状況により中止となることもございます。
当面は少人数(定員10名)での開催とさせていただきます。



今泉 健神父



松田浩一神父



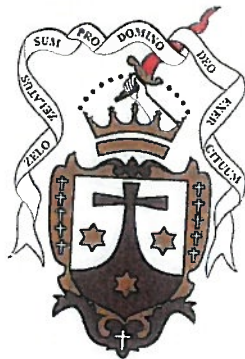
ジョニー神父

当修道院司祭が交代で指導いたします

お問合せ・お申込み: 〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

Tel: 03-5706-7355 Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp



★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の霊性を生きることとおして教会に生涯を奉げる道があります。聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証していく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思えます。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2022年 4月 2日（土）～3日（日） 16時～翌日 16時

7月 9日（日）～10（日） //

10月29日（土）～30日（日） //

2023年 2月 4日（土）～5日（日） //

会費：¥5,000（3食付き）

*お問合せ お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1789

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp



2021年秋冬 AMラジオ放送 毎夜9:30~ (全国放送)
AM1566kHz
番組案内 インターネット放送 www.febcjp.com (毎日更新)

日 夜9:30~

全地よ主をほめたたえよ

- 主日礼拝取材番組
- [第1]日キ教会 高知旭教会
- [第2]日基教団 石動教会
- [第3]ホーリス教団 東京中央教会
- [第4]日基教団 小岩教会
- [第5]日基教団 久万教会

[第1,2,5]夜10:27~

神からのメッセージ

グレゴリオ聖歌

橋本周子
聖グレゴリオの家
宗教音楽研究所長

[第3,4]夜10:27~

聖歌を味わう(再)

[10~12月] テゼ
[21.1~3月] 正教会

月~金 夜9:30~

FEBBC TODAY - 今日の聖書・今週の讃美歌 -

恵子の郵便ポスト

夜9:48~

聴く信仰

「いのち」をいただく
御言葉黙想

山内十束
カトリック・御受難修道会
望遠黙想の家司祭

新 夜9:47~

ダビデのひこばえの到来

竹森満佐一
日基教団元教師

夜10:14~

Echo of Voices

長倉崇宣

夜10:28~

御足の跡を

小池与之祐
日基教団 神の愛
キリスト伝道所教師

水

夜9:47~

Session

- イエスのTuneに
合わせて

早矢仕宗伯
「NCAMイエスの風」教師

塩谷達也 コスベル
長倉崇宣 シンガー

夜9:47~

嘆きに応える 神の御言

金田聖治
日キ教会
上田教会教師

夜10:11~

五十嵐ジュンの Contemporary Christian Music

夜10:28~

ふらっとトーク

中川信一
長倉崇宣

木

[第1]夜9:37~

イエスとの 対話の旅

- 現代霊性神学講座

中川博道 カトリック・
カルメル会宇治修道院司祭

[第1]夜10:25~

外からの「声」

- FEBC HANGOUT!

[第2]夜9:37~

イエスのことばの、その根(再)

雨宮神父の福音書講座

雨宮 賢 長倉崇宣
カトリック東京教区司祭、
上智大学神学部名誉教授

[第3~4]夜9:37~

生きるとは、キリスト

[第3~4]夜10:20~

MeguのCCM insight!

金

夜9:30~

ボン・ヘアッアアー著 『共に生きる生活』 を読む(再)

江藤直純
ルーテル学院
大学前学長

吉崎恵子

夜9:53~

Kishikoの ひとりじゃ ないから

[第1~3]夜10:04~

コーヒー ブレイク・ インタビュー

[第4~5]夜10:04~

交わりのことば

新 夜10:31~

聖歌を味わう

[10~12月]
テゼ・和解のうた
植松 功

[21.1~3月] 正教会
マリア松島純子





宇治カルメル会 黙想会案内 (2022年度～)

3月より黙想会を再開しております

【一般のための黙想】 中川博道神父

1泊2日 (土曜午後5時～日曜午後4時)
5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始
4/9～10 4/9～10 6/4～5
9/17～19 (2泊) 10/29～30

2023年

1/14～15 2/18～19

【聖書深読】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

4/23 5/28 6/25 10/8 11/19

2023年

~~1/28~~ → **1/21** ~~2/25~~ → **2/11** 変更

【水曜黙想会】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

5/18 6/15 7/13
9/21 10/26 11/23

【ゴールデンウィーク黙想会】 中川博道神父

4/29 (金) 夕食～5/6 (金) 朝食
参加期間は、全日通しでもどの曜日からでも自由です。

【カルメルの霊性】 (午後5時～午後4時) 中川博道神父

幼きテレジア 10/1 (土)～2 (日)
十字架の聖ヨハネ 12/17 (土)～18 (日)

【奉献生活者の黙想】 (午後5時～午前9時) 一般可

7/23 (土)～8/1 (月) 中川博道神父
8/4 (木)～13 (土) 松田浩一神父
9/5 (月)～14 (水) 中川博道神父
10/13 (木)～22 (土) 中川博道神父
12/27 (火)～1/5 (木) 中川博道神父

【祭日のミサに参加するために】

*<聖週間を祈る>

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
聖木曜日から復活祭まで通してどの曜日からでも参加可。(講話なし 食事つき)

*<クリスマス>

12/24~25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
(講話なし 食事つき)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時~午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願ひ致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2022年 — 祈りの集いのご案内

イエス様のように祈る

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

- 1月13日 「御旨を行う」（詩編40：9）
2月10日 「私が父の家にいるのは」（ルカ2：49）
3月10日 「イエスも洗礼を受けて祈っておられると」（ルカ3：21）
4月 7日* 「イエスはひざまずいてこう祈られた。父よ、
御心なら、この杯を」（ルカ22：42）
5月12日 「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます」（マタイ11：25）
6月 9日 「イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた」
（ルカ6：12）
7月14日 「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します」
（ヨハネ11：41）
8月 休み
9月 8日 「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」（ルカ23：46）
10月13日 「イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて」（ルカ22：19）
11月10日 「イエスは天を仰いで言われた。父よ・・・」（ヨハネ17：1）
12月 8日 「天におられる、私たちの父よ・・・」（マタイ6：9）



予約は前日の16：00まで

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
入門 A	4/24(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会リヒト宣教会 (市ヶ谷)	来間(くるま) 裕美子※ 090-5325-2518
リピーターの会 @那須	4/29(金・祝) 9:00- 5/1(日)14:00 (前泊可)	同上	ベタニア修道女会ヨゼフ 山の家 (栃木県那須郡那須町)	sadhana12378@yahoo. co.jp
ダイアリー	5/2(月)17:30- 5/6(金)16:00	同上	上石神井無原罪聖母修 道院(練馬区)	
名古屋入門 A	5/15(日) 9:30-17:00	同上	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.
入門 B	5/22(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会リヒト宣教会 (市ヶ谷)	来間(くるま) 裕美子※
沖縄 フォローアップ	6/3(金)9:00- 6/4(土)18:00 ※通いも可能です	同上	伊江島教会 (沖縄県国頭郡伊江村)	佐藤芳樹 080-3188-6573 jonah3295@gmail.com
沖縄 I & アドバンス	6/5(木)9:00- 6/6(月)18:00 ※通いも可能です	同上	同上	
入門 C	6/19(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会リヒト宣教会 (市ヶ谷)	来間(くるま) 裕美子※
名古屋入門 B	6/26(日) 9:30-17:00	同上	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…
サダナ I を終えていること。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2022年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの指示により、当分の間中止となりました。再開については、再度紙面にてお知らせ致します。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

先日、知人から送られてきた〈ウクライナのためにロザリオを祈る人々〉の映像を見て、本当にたくさんの人々、特に男性たちがひざまずきながらロザリオを祈る姿に感動を覚えています。そして日々、ウクライナ・ロシア、そして世界の平和のために祈ることを強く促されています。

(People in Poland fill the streets to pray the rosary for Ukraine! - YouTube)。

また、先日、黙想会に集まれた皆さんからの様々な分かち合いの中に、ウクライナの人々が戦火からの避難所において、「主よ、御もとに身を寄せます。とこしえに恥に落とすことなく／恵みの御業によってわたしを助けてください。」の詩編 31 番を祈り続けているというニュースや、世界の各地で祈りの波が新たに起こっているというニュースも耳にしました。

歴代の教皇様たちはファチマの聖母の預言に基づいて、ロシアの回心を願い、ロシアを聖母の汚れなき御心に奉献されてきました。そして、教皇フランシスコは、3月25日（金）神のお告げの祭日にとり行われる、ロシアとウクライナのマリアの穢れなき御心への奉献において、ご自身と一致して欲しい、と全世界の司教らに呼びかけ、世界中が一丸となって神にそして聖母に立ち帰るよう促されています。

このウクライナの戦禍の中、フランシスコ教皇様のコロナ禍での呼びかけをあらためて思い返し、祈っています。

主よ、あなたは呼びかけておられます。信じるようにと呼びかけておられます。あなたがおられることを信じる、それだけでなく、あなたのもとに行き、あなたにより頼むようにとの呼びかけです。四旬節の今、あなたの差し迫った呼びかけが響きます。『回心せよ』、『今こそ、心からわたしに立ち帰れ』（ヨエル 2・12）。主はこの試練の時を選びの時とするよう求めておられます。あなたの裁きの時なのではなく、わたしたちの決断の時です。何が重要で、何が過ぎ去るものなのかをえり分ける時、必要なものとそうでないものを見分ける時です。主なるあなたに対しての、他者に対しての、生きる道を定め直す時です。」

（『パンデミック後の選択』27～28頁）

（Fr. 中川博道 o. c. d.）

